

差別と現実逃避



東郷 潤

「異教徒は悪魔だ」と教えている、遠い宇宙のある星のお話です。



ある日彼らは初対面の異民族を悪魔だと誤解し殺してしまいました。…けれど一時の熱狂が覚めると、犠牲者が悪魔などでは無いと彼らはすぐに気づきました。だって本物の悪魔にしては弱すぎますもの。



さてさて困りましたね。悪魔をやっつければ大満足かもしれませんが、意味もなく人を殺せばとても嫌な気持ちになるものです。



その上、もし彼らが人殺しを悪いことだと思っていれば、彼らは悪いことをしたことになると思います。彼らが地獄を信じていれば、地獄に落ちると思うかも・・・



さて現実がとても辛い時、人は現実逃避をすることがありますね。それは個人に限るものではありません。複数の人々が協力し想像を作り上げ、それを現実だと思い込み、本物の現実を否定することもあるのです。



この〇〇に、彼らが作った「想像」が入ります。

〇〇はただの想像なので、多種多様なものとなりえます。たとえば次のようなものかもしれません。¹



¹ 読者の中には、「イエスは神の子であるとの信仰を持つ者でなければ、いったいだれが世を征服する者でしょうか。(ヨハネ第一5:5)」といった聖書の教えを連想される方もいらっしゃるかも知れませんが、無関係です。





人間には無限の想像力があるので、いくらでも想像を作り出すことができますね。こうして作った想像を駆使して、●自分たちの行為を正当化し●本物の現実を否定するのです。



いやあ、幸運にも誰もいない大きな土地を手に入れることが出来たよ

あ、あいつらはただの猿だから



さて、人は認識に基づき行動します。



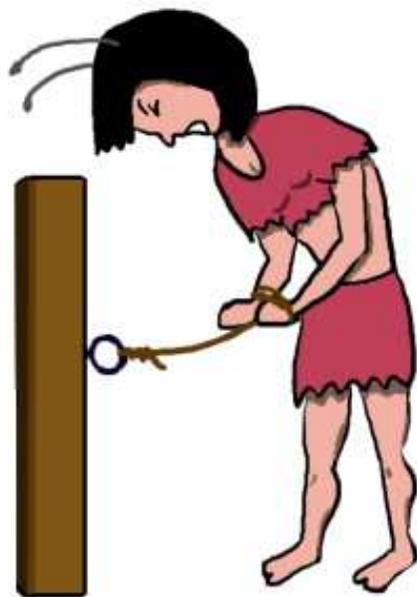
もし想像を現実だと錯覚すれば、それ以降、その人はその誤った認識に基づいて行動するでしょう。



もし、他民族という人間をただの動物だと想像し／錯覚し／信じたなら、その後ももちろん、その誤った認識に基づいて行動することとなります。その認識が変わらなければ、ずっと・・・

つまり、差別が固定化します。

キャー!!



あとがき 一絵本「差別と現実逃避」

本絵本は差別をテーマとする絵本集の1作品です。

もし、あなたがこの絵本に共感されたなら、ぜひ他の方にもご紹介いただきたくお願い致します。

本絵本は、自由にコピーして下さって結構です（商業出版はじめ金銭的な授受を伴う場合を除きます）。

また下記WEBからは、東郷潤の他の絵本やメッセージをダウンロードすることができます。

www.j15.org

©Jun Togo 2013